

オーケストラについて学習しよう!!

2年()組()番()

オーケストラは、日本語では、^{かんげんがく}管弦楽と言います。
文字通り、管楽器・弦楽器と一緒に演奏する演奏形式(演奏の形)なのですが、どんな楽器があるか…知っていますか？

日本で初めて、日本人によるオーケストラを作ったのは、山田耕柁なんだよ～！

楽器は、音楽の上の教科書の裏表紙手前のカラーページに紹介されています。

このプリントと一緒にしながら、オーケストラについて、学習しましょう！

《オーケストラという呼び方》

オーケストラとは、元々ギリシャの円形劇場で、「役者が、踊り歌う場所」という意味の『オルケストラ』。その後、劇の伴奏や効果音、バックミュージックを受け持つ楽器群を、『オーケストラ』と呼ぶようになりました。

《オーケストラの楽器》※上の教科書のカラーページを開きましょう！

オーケストラの楽器には、大きく分けて、管に息を吹き入れる楽器(=管楽器)と弦を鳴らす楽器(=弦楽器)とたたいてリズムを取る楽器(=打楽器)があります。

管楽器 → 管楽器には、大きく分けて、木管楽器と金管楽器があります。(※楽器名は、音の高い順)

木管楽器 → 管に息を吹き込んで、空気を振動させるフルートとリードと呼ばれる薄い木の板を振動させて音を出すクラリネットなどのリード楽器とがあります。元々木製で出来ていて、かなり古い時代からある楽器で、全体に柔らかく温かみのある音が特徴です。(ピッコロ、フルート、オーボエ、イングリッシュホルン、クラリネット、ファゴット、コントラファゴット)

金管楽器 → 演奏者の唇をマウスピースという音の元となる部分に当てて、振動させて音を出します。

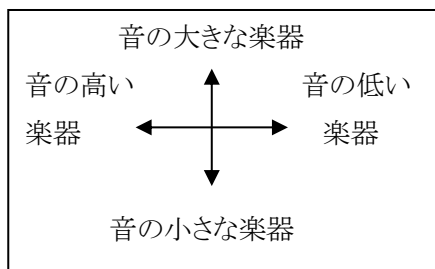
豊かな音量と勢いがある繊細な音色の変化が特徴です。古典派時代頃から出てきた楽器です。(ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバ)

弦楽器 → 木の胴体に張った弦を弓でこすったり、指ではじいたりして音を出します。バイオリンの歴史はかなり古く、バロック時代には、現在に近い形だったといわれています。

(バイオリン・ビオラ、チェロ、コントラバス)(※ハープは、曲によってない場合がある)

打楽器 → 手やバチで、楽器をたたいて音を出します。筒状の胴に膜を張った物(大太鼓・ティンパニ・ボンゴ・コンガ)、金属全体が振動する物(トライアングル・シンバル・グロッケンシュピール)、木を打ち合わせて音を出す物(カステネット・クラベス・木琴・マリンバ)、マラカスや銅鑼等も含まれる

《オーケストラの楽器配置》

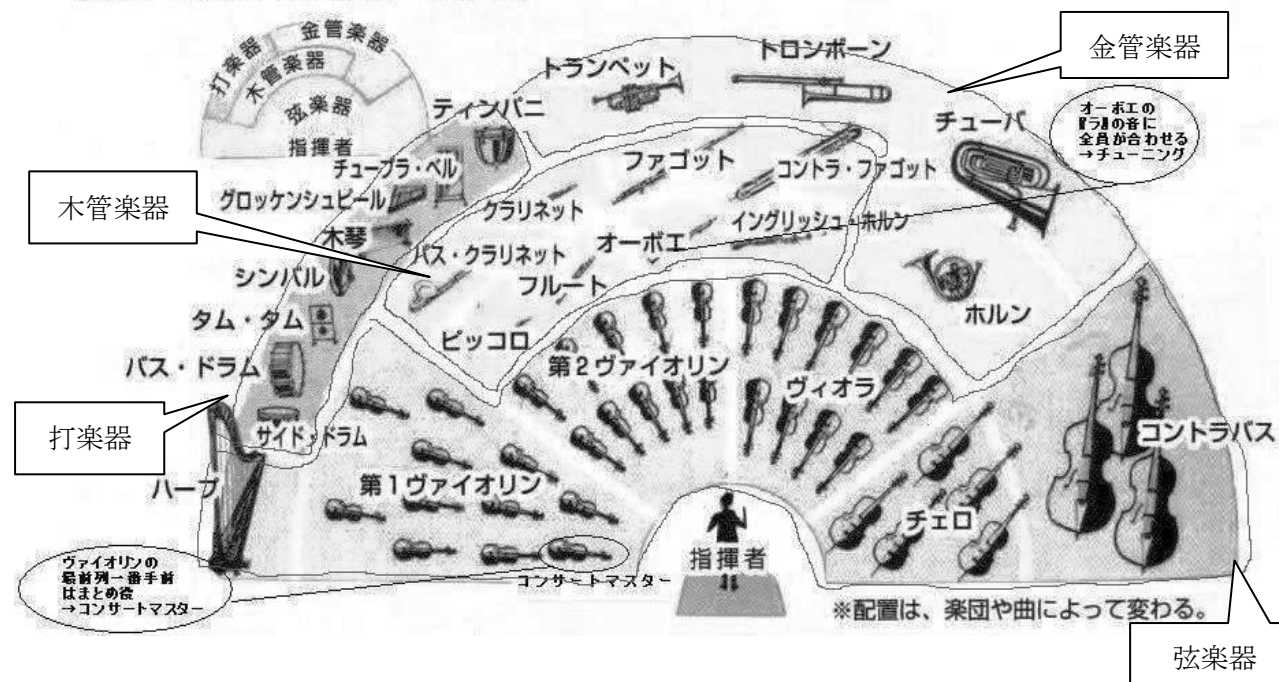


オーケストラの楽器は、音の高さや音域(出る音の幅)や音量に差があります。それぞれの音を聴き取りやすいように、左図のようなルールを元に楽器が配置されています。まず、音量が小さい弦楽器、音が細い木管楽器、爆発的な音量の金管楽器…。打楽器は、リズムを取るもので、全体に聴こえるように、一番後ろなのです。

オーケストラが出来始めたのは、バロックのはじめ頃ですが、金

管楽器が登場して、大体今の形に進化したのが古典派の終わりごろ…オーケストラに含まれる楽器が固定されて、大体今の形になったのは、古典派の終わりごろから、ロマン派にかけてと言われています。

^{かんげんがく}オーケストラ(管弦楽) ……40人以上から100人ぐらいの大規模な編成の演奏形態を「オーケストラ(管弦楽)」と呼ぶ。オーケストラの配置は「弦楽器群」「木管楽器群」「金管楽器群」「打楽器群」に分けることができる。



演奏前には、チューニングという作業をします。これは、オーボエの『ラ』の音に、オーケストラのまとめ役 コンサートマスターが、『ラ』を合わせ、コンサートマスターの音に全ての楽器が合わせるのです。

《交響曲って…??》

交響曲は、オーケストラのために書かれた曲です。3～4 楽章からなり、1か4 楽章に必ずソナタ形式を使っています。(ソナタ形式→曲の最初と最後に一番重要なメロディを持ってくる形)

《協奏曲って…??》

独奏楽器の伴奏を、オーケストラが行う形の曲。ピアノの伴奏をオーケストラがすれば、ピアノ協奏曲、トランペットの伴奏をすれば、トランペット協奏曲…。

《オーケストラ以外の楽器編成って??》

弦楽合奏…弦楽器だけで編成される

室内楽 …弦楽器と木管楽器で編成される。

吹奏楽 …金管楽器、木管楽器、打楽器で編成される。

♪じゃ、実際に演奏を見て、オーケストラの音の響きを味わおう！！

オーケストラについて学習しよう!!

2年()組()番()

オーケストラは、日本語では、()と言います。文字通り、()と一緒に演奏する演奏形式(演奏の形)なのです。

《オーケストラという呼び方》

オーケストラとは、元々ギリシャの円形劇場で、「役者が、踊り歌う場所」という意味の『()』。その後、劇の伴奏や効果音、バックミュージックを受け持つ楽器群を、『オーケストラ』と呼ぶようになりました。

《オーケストラの楽器》※教科書(上)に載っています。

オーケストラの楽器は、大きく分けて管に息を吹き入れる楽器(=)と弦を鳴らす楽器(=)とたたいてリズムを取る楽器(=)があります。

()楽器 → 大きく分けて、()と()があります。

() → 管に息を吹き込んで、空気を振動させるフルートとリードと呼ばれる薄い木の板を振動させて音を出すクラリネットなどの()楽器とがあります。元々木製で出来ていて、かなり古い時代からある楽器で、全体に柔らかく温かみのある音が特徴です。(ピッコロ、 、 、イングリッシュホルン、 、 、コントラファゴット)

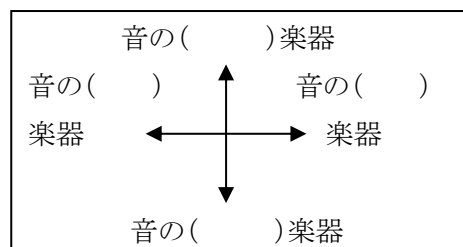
()楽器 → 演奏者の唇を()という音の元となる部分に当てて、振動させて音を出します。豊かな音量と勢いがある繊細な音色の変化が特徴です。古典派時代頃から出てきた楽器です。

()

()楽器 → 木の胴体に張った弦を弓でこすったり、指ではじいたりして音を出します。バイオリンの歴史はかなり古く、バロック時代には、現在に近い形だったといわれています。() ※ハープは、曲によって無い場合がある

()楽器 → 手やバチで、楽器をたたいて音を出します。筒状の胴に膜を張った物(大太鼓・ ・ボンゴ・コンガ)、金属全体が振動する物(・ ・)、木を打ち合わせて音を出す物(・クラベス・木琴・マリンバ)、マラカスや銅鑼等も含まれる

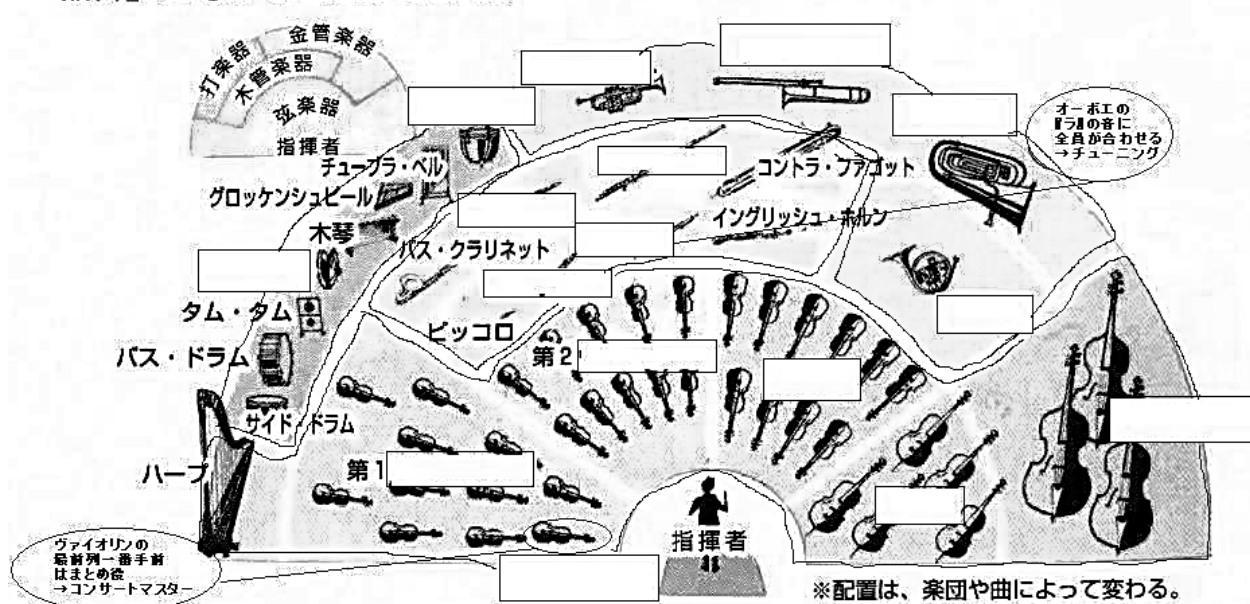
《オーケストラの楽器配置》



オーケストラの楽器は、音の高さや音域(出る音の幅)や音量に差があります。それぞれの音を聴き取りやすいように、左図のようなルールを元に楽器が配置されています。まず、音量が小さい弦楽器、音が細い木管楽器、爆発的な音量の金管楽器…。打楽器は、リズムを取るなので、全体に聴こえるように、一番後ろなのです。

オーケストラが出来始めたのは、()のはじめ頃ですが、金管楽器が登場して、大体今の形に進化したのが古典派の終わりごろ…オーケストラに含まれる楽器が固定されて、大体今の形になったのは、()の終わりごろから、()にかけてと言われています。

オーケストラ(管弦楽) ……40人以上から100人ぐらいの大規模な編成の演奏形態を「オーケストラ(管弦楽)」と呼ぶ。オーケストラの配置は「弦楽器群」「木管楽器群」「金管楽器群」「打楽器群」に分けることができる。



演奏前には、()という作業をします。これは、()の『ラ』の音に、オーケストラのまとめ役、()が、自分の『ラ』を合わせ、次に()の音に全ての楽器が合わせるのです。

《 って…??》

交響曲は、()のために書かれた曲です。3~4 楽章からなり、1 か 4 楽章に必ず()を使っています。(ソナタ形式→曲の最初と最後に一番重要なメロディを持つてくる形)

《 って…??》

独奏楽器の()を、()が行う形の曲。ピアノの伴奏をオーケストラがすれば、ピアノ協奏曲、トランペットの伴奏をすれば、()…。

《オーケストラ以外の楽器編成って??》

- ()…弦楽器だけで編成される
- ()…弦楽器と木管楽器で編成される。
- ()…金管楽器、木管楽器、打楽器で編成される。

♪出来たかな??裏面を見て、答えあわせをしよう!!